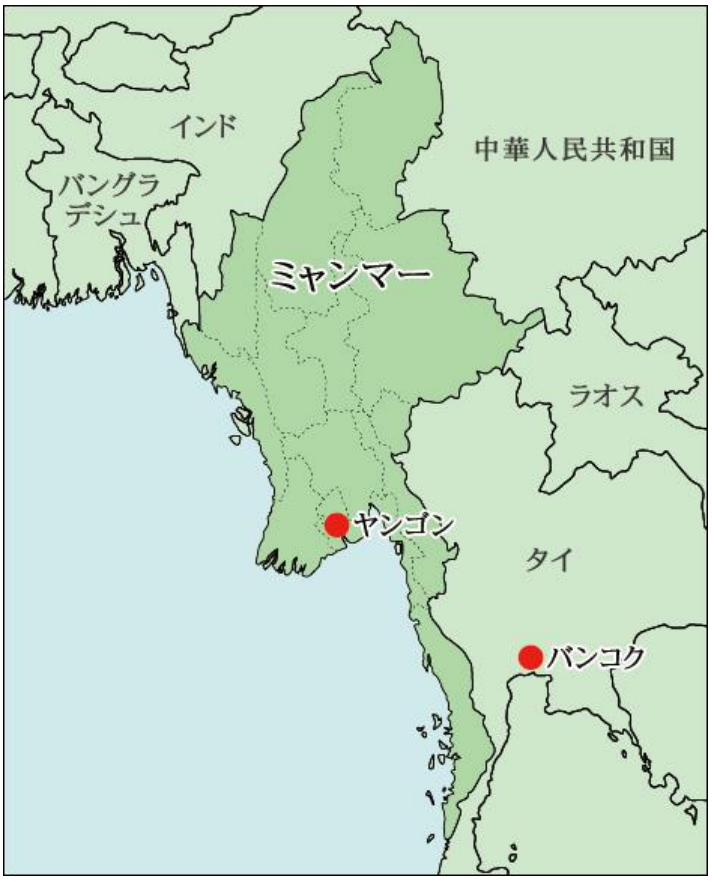
札幌商工会議所女性会
創立５０周年記念旅行

ミャンマー・タイ経済視察会
報 告 書

日　程　　平成２５年６月３０日（日）～７月５日（金）
４泊６日、新千歳発着

訪問地　　ヤンゴン（ミャンマー）、バンコク（タイ）



主　　催　　札幌商工会議所国際・貿易委員会
共　　催　　札幌商工会議所女性会
旅行取扱　　㈱ＪＴＢ北海道

行　程　表

月日	地名	時刻	交通機関	行程	宿泊
6/30 (日)	集 合 新 千 歳 発 バンコク 着 バンコク 発 ヤンゴン 着	9:00 10:45 15:45 17:50 18:45 20:00 20:30	各自 TG671 TG305 専用車	新千歳空港 国際線ターミナル ３階 国際線出発カウンター集合 空路、バンコクへ（約 7 時間） 乗り継ぎゲートへ 空路、ヤンゴンへ（約 1.5 時間） 専用バスでホテルへ ホテル着 ミャンマー連邦共和国　元 駐ベルギー大使ご夫妻との懇談会	セドナ ホテル ヤンゴン
7/1 (月)	ヤンゴン	9:45 11:00 12:00 14:45 15:00 16:00	専用車	在ミャンマー日本大使館 訪問 ジェトロ・ヤンゴン事務所 訪問 ヤンゴン日本人商工会議所との昼食懇談会 市内視察 ・アウンサン スーチーさん生家 ・Marketplace by City Mart（地元スーパー） ・ヤンゴン港	
7/2 (火)	ヤンゴン	10:30 13:30	専用車	ティラワ港（Myanmar International Terminals Thilawa）視察 市内視察 ・ボージョー アウンサン マーケット ・ジャクソンスクエアＳＣ ・シュエダゴン パゴダ	
7/3 (水)	ヤンゴン 発 バンコク 着	9:50 11:45 15:00 17:30	TG304 専用車	空路、バンコクへ（約 1.5 時間） バンコク着 ホテル着 バンコク銀行との懇談会	オークラ プレステージ バンコク
7/4 (木)	バンコク バンコク 発	10:00 午後 23:45	専用車 TG670	ツルハタイランド 訪問 ゲートウェイ エカマイ 店舗運営説明 市内視察 新千歳空港へ（約 7 時間）	機中泊
7/5 (金)	新千歳 着	8:30		到着後、解散	

●第１日　６月３０日（日）

＜ミャンマー連邦共和国 元 駐ベルギー大使ご夫妻との懇談会（夕食会）＞

場　所：セドナホテル ／　時　間：20:30～22:00

ゲスト：ミャンマー連邦共和国 元 駐ベルギー大使　Thaung Tun（タゥン・トゥン）氏

経　歴：1972 年ミャンマー外国政府省に入省。以降、ベルン、ジュネーブ、ニューヨーク、ワシントン DC、マニラ、ブリュッセル等での海外勤務を経験。2010 年 4 月：駐ベルギー大使を最後に退職。本部では、政務長官、ASEAN 高官会議のミャンマー団：団長等を歴任。サンダー・ルーウィン夫人との間に、お嬢様がお一人。現在は、ミャンマー発展研究所 理事。

＜主な内容＞

本年２月に札幌に訪問した際は、「雪」と「おいしい食事」に大変感激しました。ミャンマーは 2011 年 3 月のテイン・セイン政権発足（民主化）以降、恩赦が実施されており、現在では政治犯として捉えられていた人々の殆どが解放されています。経済面では、世界から企業進出・投資案件がもたらされており、日本からも安倍首相が５月に訪問され、今後の経済発展に向けた協力に合意を頂きました。札幌商工会議所の皆様も、是非ミャンマーとの経済交流に取り組んで頂きたいと存じます。また、皆様のご滞在が実りある視察となりますことをご祈念申し上げます。

スピーチをするタゥン・ドゥン元大使

お礼の言葉を述べる池上会長

●第２日　７月１日（月）

＜在ミャンマー日本大使館 訪問＞

場　所：在ミャンマー日本国大使館　／　時　間：9:45～10:45

対応者：沼田幹夫　特命全権大使、　渡辺俊弘　経済班書記官

＜主な内容＞

ミャンマーは、民主化が実現し世界各国が投資対象として注目している。しかしながら、アウンサン・スーチーさんが立派な方であっても周囲のブレーン（官僚）が優秀で無ければ、再び政情は不安定になる、ということを忘れてはならない。ミャンマーには特有の歴史があり、英国植民地時代は国民の多数を占めるビルマ族を統治するため、135 を数える少数民族に過酷な仕打ちが課せられた。ビルマ族の不満をそらす措置として少数民族が利用されたため、ビルマ族と少数民族の和解は容易でなはいと思われる。

ミャンマーで事業を行う際には、①手付金（賄賂）がいまだに横行　②土地は国が所有し事業者は事業用地をリースする仕組み　③独資では上手くいかない　ということは最低限知っておきたい。

アパート・ホテル事業は利益を出せるが、現地パートナー事業者との利益配分では日本側が有利とはならないため、投資の回収はかなり難しいであろう。現地パートナー事業者とのトラブルは経営危機をもたらすことになるため、しっかりした法律事務所に予めお世話になっておくことが大切である。

ミャンマーに興味を抱く日本企業が沢山あることは嬉しいが、国際社会に対応した法整備が追い付いておらず、海外送金を含めて不都合が多くビジネスには慎重を期した方が良い、という見方をしている。

電力事情は悪く、人口約 6,200 万のうち電気の恩恵を受けているのは約 3 割に留まっている（その他は、ランプ・井戸の生活）。発電方式は水力発電が全体の約 7 割を占めており、その殆どの開発権は中国が握っている。発電量の約半分を中国に送電していることも電力事情の悪さに関係している。

環境問題への意識の高まりから、テイン・セイン大統領は中国に新たな水力発電開発を認めなかったことは評価できる。日本はヤンゴン周辺に火力発電の計画をしている。

日本が開発に関わると電力・インフラ等は改善されるであろう。

警備上、カメラ・携帯電話は
持ち込み不可のため、写真は無し

＜ＪＥＴＲＯヤンゴン事務所　訪問＞

場　所：ＪＥＴＲＯヤンゴン事務所（セドナホテル内）／　時　間：11:00～12:00

対応者：山口　哲　海外投資アドバイザー

＜主な内容＞

ミャンマー経済を語る場合、統計数値では判断できない要因も考慮に入れる必要がある。ヤミ経済・密輸・出稼ぎなどは統計に反映されないため、実体経済は数値より豊かであると思われる。ミャンマー国民の幸せの尺度は、経済的豊かさだけではない。

ミャンマーの魅力は、良質な労働力を確保できる「東南アジア最後の国」ということである。中国は、エネルギー・水・人口という 3 つの問題を抱えているため、これまでのような発展は期待できない。タイは、周辺国からの移民流入があるにもかかわらずバンコクでは失業率 0.5%台と低く、労働力が確保できない状況にある。インドネシアでは、正規労働者と非正規労働者の賃金格差が激化しストライキが多発する等、賃上げが著しい状況にある。ベトナムは、最低賃金は低いが、近年はキャノンのベースアップ実施、サムスンの進出などで賃金が上昇傾向にある。カンボジアは、かつてのポルポト粛清の影響で 30 代の管理職層が手薄となっている他、全体的にはまだ識字率が低い。バングラディシュは、縫製工場の崩壊事故（死者 1000 名以上）で労働者の権利保護が不十分とされ、特恵関税が廃止された。

このような状況から、良質な労働力を確保できるのはミャンマーしかない。日本人に対しては、時間を守る・約束を守る、というイメージが強く親日的と言える。離職率を低くし、工場での生産を軌道に乗せるには、駐在は人格者である、ということが条件。雇用労働者は大きな家族の一員、という感覚を持つことができる人物が適任である。

山口アドバイザーの話を聞く女性会参加者

＜ミャンマー日本人商工会議所との懇談会＞

場　所：セドナホテル　／　時　間：12:00～13:30

参加者：高原正樹　JETRO ヤンゴン事務所長

野中鉄朗　みずほコーポレート銀行　ヤンゴン出張所　所長

高橋隆治　タイ JFE 商事会社　ヤンゴン支店　副支店長

仁保秀親　伊藤忠丸紅シンガポール会社　ヤンゴン事務所　所長

田原隆秀　KPMG ADVISORY(MYANMAR) LTD. マネージャー

行方國雄　TMI 総合法律事務所ヤンゴンオフィス　マネージングディレクター

伴　　彰　みずほコーポレート銀行　ヤンゴン出張所　参事役

＜主な内容＞

３卓に分かれ、各卓にミャンマー日本人商工会議所が２～３名ずつ配置する形式で札幌参加者との情報交換を行った。JETRO 高原所長は冒頭挨拶でミャンマー日本人商工会議所の会員数について触れ、1 年前（2012.6 月）は 50 数社であった会員が、2013.6 月では 105 社に倍増していることを報告。アジア最後のフロンティア「ミャンマー」への日本企業の注目度の高さが伺い知れた。現在は、「情報収集のための駐在員配置」という形が多い。

2012 年春にタイから赴任した参加者は、日本企業の合弁相手に適した現地優良企業を探している、とのこと。昨年秋から日本企業の視察対応に追われているため、視察者の質問に答える準備をしていると自然と調査も進む、と苦笑いしていた。オフィス進出が急増したヤンゴン市内はオフィス賃料の高騰が伝えられていたため、今後の企業進出に水を差すことにならないか質問したところ、今は急激に需要が増えたため一時的に高騰しているが、ヤンゴン市内は住宅・ビルなど建築物の老朽化が進んでおり再開発が急務であることから、直ぐに供給が追い付き価格も落ち着くであろう、との見通しであった。

大使館では国際舞台の経験が浅い「ミャンマーリスク」への懸念を強調していたが、実際に企業活動をしていての感想を伺うと、ミャンマーの法律は英文化されていないため各国企業は法律解釈に苦慮している、という実態をお話し頂いた。インフラ整備や再開発に日本企業が参画しても、ここで工事ができるのか、サービス提供までなのか、許認可をどう解釈・判断するかという面もあるため、しっかりした法律事務所にお世話になる、ということは正しいアドバイスであり法律整備の動向には今後も注意していく必要がある、とのことであった。

＜アウンサン スーチー　生家＞　時　間：14:45～14:50

国会議員として国政に復帰し 1 年余りが経過したアウンサンスーチー氏は、ミャンマーの最大野党 NLD（国民民主連盟）の党首として、民主化の旗手を務めてきた。

現在のミャンマーはアジア最後のフロンティアとして全世界から注目され、民主化移行後に始まった投資・開発ブームの真っ只中にあるが、スーチー氏は幾度も軟禁状態に置かれ、民主化プロセスを成し遂げる後継者育成に着手できなかった。
既に各国の興味は、ミャンマー民主化路線の正否が問われる 2015 年の総選挙結果に向けられている。

写真は、英国からの独立に尽力し「建国の父」として讃えられているアウンサン将軍（スーチー氏の父）。

アウンサン スーチーさん生家の門
（門上部の肖像は父親のアウンサン将軍）

＜Market Place (by City Mart)　シティマート＞　時　間：15:20～16:00

ヤンゴンで最も成功している地元スーパー。

地元生鮮品から日本や韓国の食材、ヨーロッパのお菓子・調味料の他、化粧品・生活衛生用品等、生活必需品は何でも揃う。地元市民の他、外国純駐在員も数多く利用している。

日本からの駐在員・家族の食品・身の回り品の調達拠点となり得ることを確認した。

スーパーのため、写真撮影は禁止

＜ヤンゴン港・ストランド通り周辺＞　時　間：16:30～18:00

イギリス植民地時代の建築物が残る市街地。高級ホテルや日本企業が多く入居するオフィスビル周辺を歩き、人々の動きを肌で感じる予定であったが、スコールと渋滞のためバス車窓からの目視に変更。

●第３日　７月２日（火）

＜ティラワ港　視察＞

場　所：ミャンマー国際ターミナル　ティラワ　／　時　間：10:30～11:20

対応者：ミン・キー　ミャンマー国際ターミナル ティラワ　ゼネラルマネジャー

Min Kyi, General Manager, Myanmar International Terminals Thilawa Limited.

＜主な内容＞

ティラワ港は、ヤンゴン市街から約 20 ㎞下流に位置する河川港。今後、ヤンゴン周辺は企業・工場等の進出により、一層の工業化と港湾コンテナ取扱量の増加が見込まれている。ヤンゴン港は、水深が浅く大型船は満潮時に入港する等運用に制限があり、市街地に隣接していることから、機能拡充や拡張は困難な状況にある。

日本が開発するティラワ地区は、ヤンゴン港より水深が深く、広大な後背地を有しており、日本が開発する 2,400ha（東京ドーム約 500 個分）は経済特区に指定される計画で、日本企業はもとよりシンガポール・香港・タイ等の企業進出も見込まれている。工場や商業施設、マンションなどが建設される予定で、今年度から 2015 年までに港湾施設の改修・拡張、電源設備・関連道路の整備、工業用地造成など約 400ha を先行整備する予定。

貨物取扱能力は、現在の 35 万 TEU から 100 万 TEU に引き上げる計画。現在は、輸入が鉄鋼や自動車を含む機械類、輸出は木材（丸太は今年限りで禁止）・お米が主要取扱貨物となっている。

港湾の将来像を説明するミン・キー部長

ヤンゴン港より川幅・水深ともに大きいティラワ港

＜ボージョー　アウンサン　マーケット＞

ヤンゴン最大規模のマーケットと聞き立ち寄った。名産の宝飾品、衣類、雑貨等がずらりと並び活況であったが、観光地化しており日常生活での利用には適さない。

観光市場という印象のボージョー アウンサン マーケット

＜ジャクソンスクエア　ショッピングセンター＞

2012 年 3 月にオープンした売場面積 28,000 ㎡のショッピングセンター。１階は化粧品、紳士服、時計・宝飾類、２階は婦人服、ヤングカジュアル、子供服、玩具類、３階はフードコートとシネマコンプレックスがあり、日本のショッピングモールと似ている。駐在員や家族の衣類、時計、靴、バッグなど生活雑貨はここで調達できる。今回の視察では家具・食器類を置いている店を探し出せなかった。

ショッピングセンターのため、写真撮影は禁止

＜シュエダゴン　パゴダ＞

ミャンマーで最も有名な寺院（仏舎利塔）。寺院の建立は約 2600 年前で、当時の塔の高さは約 20m。現在の約 100mになったのは 15 世紀頃、とのこと。視察中、ミャンマーの人々は秩序があるという印象を受けたが、仏教徒が多いことも関係すると思われる。JETRO 訪問の際、ミャンマーの労働者は管理者の態度を良く見ており、工場長や管理者は人格者が望ましい、との話を思い出し、信義に厚い国民性もこの寺院を訪れ納得できた。

敷地内にも多数の仏教建築が立ち並ぶ

シンボル的存在の仏舎利塔

●第４日　７月３日（水）

＜バンコク銀行との懇談会＞

場　所：タイ料理 Naj　／　時　間：17:30～18:30（懇談後は食事会）

対応者：嶋村　浩　バンコク銀行日系企業部上席副部長、貴田　隆　同副部長、田矢良平　同部員

＜主な内容＞

タイの政情は不安定で、政変・クーデターは数年に一度発生している。これを国王が鎮めてきたという歴史がある。経済的には、過去の通貨危機・洪水被害を乗り越え活況を呈している。現在のバンコク失業率は、0.5～0.65%と非常に低い水準にあり、バンコクへの進出企業は思うように人手が確保できない状況にある。過去 2 年間は、投資件数の約半数が日本企業で、在留邦人は短期滞在を含め 6～7 万人と言われている。日本人学校の在校生も 2 年前より倍増している。

タイに進出する場合においては、他国と同様に信頼できるコンサルタントを選定することが重要である。日本人コンサルタントだからといって信用することは大変危険であり、低価格を理由に契約しても結果的に高くつくことが多い。不動産等、店舗探しもコンサルタントの腕次第である。

バンコク銀行は、全体預金量の約 2 割を占めるタイ最大の銀行で資金調達力が強い。タイにおける通常融資は金利約 7%であるが、バンコク銀行の「スタンドバイ L/C」は約 4%という優位性のあるサービスを提供しており、貸し剥がしもない。金融機関はコンサルティングを行えないが、別会社を設立し紹介等を行っているため、ワンストップサービスの体制を構築している。

貴田 副部長よりバンコク経済・バンコク銀行の話を聞く参加者

●第５日　７月４日（木）

＜ゲートウェイ エカマイ（商業施設）、ツルハタイランド（ゲートウェイエカマイ店）＞

場　所：ゲートウェイ エカマイ（ショッピングセンター）／　時　間：10:00～11:00

対応者：高瀬彰夫　ツルハタイランド取締役、及川眞喜夫　TCC Land Retail Co.,Ltd　日本担当部長

＜主な内容＞

2012 年 7 月オープンのツルハ海外 1 号店。高瀬取締役が「海外 1 号店の最適店舗を探している」という話を聞いた TCC Land Retail の及川部長が「是非うちでやってみないか」とゲートウェイ エカマイへの出店を斡旋し実現した。及川部長と高瀬取締役は大学の先輩・後輩であったことも話がスムーズに運んだ要因となった。高瀬取締役は「信頼できるパートナーと出会えるか」が商売の成否を分ける大きな要因である、と語った。現在、ツルハはタイに 6 店舗を構えており、間もなく 7 店舗目がオープンする予定。

及川部長が在籍する TCC グループは、商業施設やホテル・工業用地開発の不動産部門、商社、保険・リース、外食・飲料、農園等を運営する財閥の 1 つ。エカマイは市街地から約 5Km と立地の良い高級住宅地でタイ人富裕層の他、日本人が多く居住する地域である。

タイも商業施設間の競争が激しく、近年は高架鉄道駅や地下鉄駅直結など、交通拠点とのアクセスが

良い施設でないと勝ち残れない、とのこと。ゲートウェイ エカマイは、日本のスーパー、飲食店が数多く入居する施設で、日本人の他、タイ人の顧客も多い。

TCC グループの施設をオークラがホテル運営するなど、日本企業のパートナーも多い。

及川部長（左）と高瀬取締役（右）

ツルハ海外 1 号店の店構え

ゲートウェイ エカマイ外観
（手前は高架鉄道）

＜ワット・ポー（大涅槃像）＞

帰国便の深夜までの時間を利用し、オバマ大統領も訪れたというワット・ポー（大涅槃像）に立ち寄った。大涅槃像のある堂に入場するには靴を脱がなければならず、大胆な肌の露出も禁止とのことで、仏陀を敬うマナーは徹底していた。（ミャンマーも同様）

涅槃像は長さ 46m と巨大で、足の裏（偏平足）には 108 の絵が描かれていた。背中側には煩悩を捨てる 108 個の鉢があり、買った硬貨を 1 つ 1 つ鉢に入れていく風習があった。

大涅槃像（正面と背中）

＜23:45　バンコク発 TG670　にて帰国＞

●第６日　７月５日（金）

＜09:00　約 30 分遅れで　新千歳空港に到着～解散＞

ミャンマー国旗

タイ国旗